

## フィリピン国レガスピ市の コンポスト処理技術向上を目指して

(館林市、有機性廃棄物分解処理装置製造メーカー岡田製作所の取組み)

国際協力機構(JICA)は6月30日、「中小企業海外展開支援事業～案件化調査～」において株式会社岡田製作所(群馬県館林市、鈴木 郁男 代表取締役)が提案する「籾殻での生ごみ堆肥化処理による高付加価値肥料の製造に関する案件化調査」(フィリピン国)を採択しました。

調査対象国であるフィリピン国では、オープンダンプサイトに投棄されるごみ山にみられるように、アジア諸国のなかでもごみ処理レベルが低く、政府は固形廃棄物エコ管理法など法整備を進めるとともに、積極的に新たなごみ処理技術の導入を検討しています。対象とする地域であるルソン島レガスピ市では、毎日36m<sup>3</sup>の生ごみがオープンダンプサイトに搬入されており、分別処理を通じた堆肥化を一部試験的に実施しているものの、処理量が少なく非効率であるため、経済的・環境的に満足する処理結果が得られていません。

株式会社岡田製作所の技術である「岡田式発酵攪拌装置」は、国内の自治体や農場などに1万件以上の販売実績を有しており、同社技術により低負荷、低ランニングコストを実現し、蒸気を抜くことで乾燥度が向上、また、独自の羽根配列により堆肥化の均一化を可能としています。また、同社製品にて生ごみを堆肥化し有機肥料を製造することで、農業での環境改善や生産性の向上が期待されます。



提案製品である「岡田式発酵攪拌装置」を活用しての、生ごみを原料とした堆肥化製造の様様

本調査では、現地にて事業を開始するための許認可や現状調査(廃棄物の回収から処理にかかるフロー)など、事業計画の策定を行うとともに、ODA事業への案件化への検討を行います。

この調査は、我が国の中小企業を対象とした「中小企業海外展開支援事業～案件化調査～」として実施されます。案件化調査は、途上国の開発ニーズと日本の中小企業の優れた製品・技術等とのマッチングを行い、製品・技術をODA事業に活用するための情報収集・事業計画立案

等を支援することを目的としたもので、2012年度から実施されており、2016年度第1回分は本年2月に公示を行いました。117件の応募のうち35件が採択され、今後の契約交渉を経て契約に至ったものから、順次調査を実施します。

参考:(プレスリリース)案件化調査2016年度第1回公示の採択結果について

URL:<http://www.jica.go.jp/announce/notice/investigation/index.html>

【本件に関する問い合わせ先】

JICA 東京 市民参加協力第一課 千葉 理恵

TEL 03-3485-7680 E-mail : [jgptco@jica.go.jp](mailto:jgptco@jica.go.jp)